

DATA BASE 図書館データベース リンク紹介

本学では、インターネット上で利用できるさまざまデータベースを契約しており、和・洋合わせ30種類以上のデータベース・電子ジャーナルを閲覧・検索する事が可能です。
 本学の学生は、無料で自由に閲覧することができますので、研究やレポート作成の資料として、ぜひ活用してください。

※一部のデータベースを除き、学外からアクセスはできません。

大阪経済大学図書館トップページ



CLICK!

新聞データベース

- 聞蔵Ⅱビジュアル・朝日
- 日経テレコン21
- オンライン版(EBook) etc.



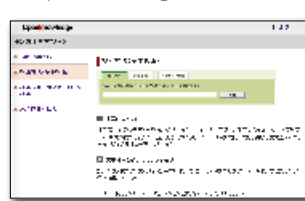
雑誌データベース

- MAGAZINEPLUS
- GeNii
- [学術コンテンツ・ポータル:国立情報学研究所]
- 日経BP記事検索
- LEX/DB判例データベース
- 東洋経済デジタルライブラリー etc.



百科事典・辞書データベース

- JapanKnowledge+



データベースご利用上の注意 !!

データベースの利用において、右記の行為は禁止されています。
 違反があった場合、それがたとえ1人だけの行為であっても大学全体の利用が停止されることがあります。

- ★全文ファイルを自動ダウンロードソフト等を利用して、大量のファイルを一括または連続してダウンロードすること。
- ★全文データの複製・再配布。
- ★全文データを個人利用以外の目的で使うこと。 **注意**

information

“読書ラリー”に参加しよう!!

図書館では、学生が本に親しみ、本を読む楽しみを味わえるように学習・研究用図書以外にも、各種文学賞受賞作品や、新聞・雑誌などのメディアで取り上げられた話題の本など、学生の関心・興味のある本を購入しています。
 特に今年は「国民読書年」にあたるということで、本学の教職員にも“学生に読ませたい本”を推薦していただきました。図書館の本の中から、5冊を読み、うち1・2冊について、簡単なコメントを書いて提出すれば、図書カードをプレゼントします。
 「読書ラリー」の詳細は、図書館ホームページでご確認ください。



読書ラリーの詳細は…
<http://www2.osaka-ue.ac.jp/tosyokan/>



めく〜る貸出 ベスト3

ベストセラーの本を中心に、展示しています。学部生のみ貸出可能です。3ヶ月展示後、「一般図書」の書棚に移動します。すると、だれでも借りることができます。

	タイトル	著者	請求記号
1位	この一冊で「考える力」と「話す力」が面白いほど身につく! : 図解1分ドリル(青春新書PLAY BOOKS)	知的生活追跡班編	141.5/Chi
	20歳のときに知っておきたかったこと : スタンフォード大学集中講義	ティナ・シーリグ/著 高遠裕子訳	159/See
	1Q84 (ichi-kew-hachi-yon) : a novel	村上春樹/著	913.6/Mur/1
2位	図解で学ぶドラッカー入門	藤屋伸二/著	335.1/Fuj
	思いどおりに働く! : 20代の新世代型仕事スタイル	宮脇淳/著	159/Miy
3位	24歳からのビジネス教科書 : 学生脳を社会人脳へ変えるための44のメソッド	篠上芳光/著	159/Shi
	9割受かる勉強法	松原一樹/著	376.8/Mat
	東大生が選んだ勉強法 : 「私だけのやり方」を教えます	東大家庭教師友の会編	379.7/Tod
	自殺プロデュース	山田悠介/著	913.6/Yam
	筆談ホステス	斉藤里恵/著	916/Sai

2010年4月以降に貸出された、めく〜る本のランキングです。

大阪経済大学図書館 2010年10月1日発行

〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2丁目2-8 Tel:06-6328-2431(代表)
<http://www2.osaka-ue.ac.jp/tosyokan/> 携帯サイト<http://libopac.osaka-ue.ac.jp/k/>

としょかん

82
2010.10.1

大阪経済大学図書館報



CONTENTS

- ・読書の秋!! 秋の夜長にオススメ書籍
- ・図書館データベース リンク紹介
- ・“読書ラリー”に参加しよう!!
- ・めく〜る貸出 ベスト3

読書の秋!! 秋の夜長にオススメ書籍

食欲の秋、読書の秋、芸術の秋、秋といえば、いろいろなイメージの秋があります。これから深まる秋の夜長にオススメの本を新任教員の方々から紹介していただきました。

『赤毛のアン』 ルーシー・M・モンゴメリ／著 集英社

ルーシー・M・モンゴメリの『赤毛のアン』といえば、誰もがその名を耳にしたことがある不朽の名作だ。しかし、この作品が彼女の複数の著作からなるシリーズであることを知らない人は多いだろう。かくいう私も、その一人だった。カナダのプリンス・エドワード島を主な舞台として展開されるこの物語は、アンと彼女を取り巻く家族や友人との愉快で心温まる日常生活を描いている。映画を観る前にあらすじを語ることを、我が家では「浜村淳」と呼んでいる。先入観なく読んでもらうために、ここではあえて「浜村淳」はしないが、この本は女性のみならず男性や若い読者の心をも虜にする力を持っている。あまりのおもしろさに、ページをめくるうち、最寄り駅を乗り過ごしたこともあった。古典芸能や歴史的名著の多くが持つ独特の難解さはなく、現代人の我々が読んで十分に楽しめる。もちろんそれは、訳者の努力に負うところが大きいのだが。この作品は複数の訳を比較したり、英語で書かれた原文と見比べることも楽しめる。講義を2、3日休んで全作品の読破に費やす価値はあるが、休暇や通学時間を利用することを勧める。



請求記号:933/cM78

あさだ ひろふみ
浅田 拓史／経営情報学部 講師

『自分で考えるちょっと違った法学入門』 道垣内正人／著 有斐閣

「法律学に正解はない。」「要するに法律学は説得の学問である。」とそのはしがきに述べられているこの本は、「ケーキの分け方」というタイトルで、一個のケーキを兄弟喧嘩しないように切り分ける方法を考えるというように一見法学入門とは関係ないようなことから始まっている。そして、「早い者勝ち」とか、「ジャンケン」とかが答として用意されている。しかし、例えば「早い者勝ち」は、海底火山が洋上に出現したときは、早く見つけた国の領土になる国際ルールがあるとかのように法律に結びつけている。自分でちょっと考えてみて「いかに座りのいい説明を与えるか」を導くように組み立てられている。法学に興味のある人もない人も「なるほど!」とついつい読み進んでしまうかも。但し、後半は徐々にレベルが高くなってきて難しいかもしれませんが、自分で考えるという習慣を身につけるには、秋の夜長にちょうどいいかもしれません。



請求記号:321/Dog

あすま ゆういち
東 裕一／経営学部 准教授

『八十日間世界一周』 ジュール・ヴェルヌ／著 岩波書店

この夏休みに旅行しましたか? 学生時代の私は、夏にどこにも行かず、秋になって「旅すればよかったなあ」と後悔を繰り返しました。かつての私と同じ思いを今している人にも、夏の旅だけでは飽き足らず、また旅に出たくなっている人にも、お薦めの旅があります。「八十日間世界一周」(ジュール・ヴェルヌ作)の旅です。この旅は、もちろん普通の旅ではありません。皆さんは、八十日間で世界を一周しなければ(賭けに負けて)全財産を失ってしまうフォッグ氏とその召使パスパルトゥーと一緒に、現代では味わえない1872年(明治5年)の世界を巡ります。今では目にすることのできない風景や人びとの営みが皆さんの眼前に広がるでしょう。ただし、フォッグ氏らと違って、皆さんは「時間」を気にする必要はありません。フォッグ氏らも、たとえ皆さんの歩みがのんびりしていても気にとめないでしょう。途中で立ち止まっても、来た道に戻っても構いません。読書という旅は、自分のペースでできるものですから。

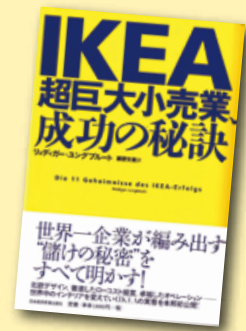


請求記号:B1635

うえみや ともゆき
上宮 智之／経済学部 講師

『IKEA 超巨大小売業、成功の秘訣』 リュディガー・ユングブルート／著 日本経済新聞出版社

IKEA(イケア)は、直営店だけでも世界25カ国272店舗で家具を販売する巨大企業です。2006年からの直営店の開店で日本でも知名度が高まってきましたが、ブランド価値ではアディダスを超えるとの評価もあります。このIKEAの始まりは、現在84歳の創業者イェンガヴァル・カンブラードが、17歳の時にスウェーデンで立ち上げた家族企業でした。北欧デザインで評価の高いIKEAですが、「新しい製品を作るならまず値段をデザインしろ」が決まり文句で、低価格の追求が最大のミッションです。創業者カンブラードは、世界でも指折りの資産家とされますが、私生活でも質素倹約を徹底し、贅沢や浪費、ステータス・シンボルとは無縁です。この本では、カリスマ創業者のカンブラードの歩み、明るく親しみやすい北欧企業のイメージの内側、ビジネスの成功要因を明らかにしています。この本の内容をIKEAでのショッピング体験に重ね合わせると、商品や販売方式の特徴を立体的に理解することができるでしょう。



請求記号:583.7/Jun

こまつ あきこ
小松 亜紀子／人間科学部 准教授

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』 岩崎夏海／著 ダイヤモンド社

『もしドラ』を知っていますか。「せかちゅー」(ふるいっ…)のように本の略称ですが、いま、すごく売れている話題の本です。しかも、著者は「ダウンタウンのごっつええ感じ」などのテレビ制作や、AKB48のプロデュースに携わっている、エンタメ系の人なので、とても気軽に読めます。ところで『もしドラ』とは、『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』という本の略称です。内容は高校野球の女子マネージャーが、有名な経営学者のドラッカーが書いた『マネジメント』という本を読んで、弱小野球部を育成し、甲子園出場を果たすというお気楽な話です。しかし『マネジメント』を下敷きしているだけあって、経営学とは何かということを考えさせてくれるよい本だと思います。100万部以上売れている本ですが、図書館にもあるようなので、ぜひ一度手にとってみてください。



請求記号:913.6/Wa

しみず はじめ
清水 一／経営情報学部 講師

『日本人のアジア認識(世界史リブレット66)』 並木頼寿／著 山川出版社

図書館より、「学生の皆さんが身近に読めて手軽に購入できるオススメの書籍」というテーマをいただきました。私が紹介するのは、並木頼寿著「日本人のアジア認識(世界史リブレット66)」(2008年、山川出版社)です。およそ80頁から成るこの本は、主に江戸時代から太平洋戦争の時期に、日本人が中国をはじめとするアジアをどう認識したのかということと、政治家、知識人など具体的な人物に焦点をあてて紹介しています。歴史に関する本ですが、内容は過去の事柄だけにとどまりません。この本は結びで、「先進の日本」が他の「後進のアジア」を指導し、リードするという幕末・明治期以来の日本人に見られた発想を、見直す必要性を説いています。この主張に対して読者は色々な意見を持つと思いますが、将来を見据えながら歴史と向き合おうとする作者の姿勢が読み取れます。現在、日本とアジアとの関係は非常に深く、この状況は今後も続くでしょう。そして大経大で学ぶ皆さんは、何らかのかたちでアジアと関わりをもち、アジアにどう接するべきかを冷静に考えねばならない場面に遭遇するでしょう。その際、日本人のアジア認識のあゆみを知っておくことはとても有効だと思います。過去は現在、未来とつながっています。アジアとどう向き合っていくべきかを考える手がかりとなる本として、学生の皆さんに一読をお勧めします。



請求記号:319.1/Nam

よしだ たていちろう
吉田 建一郎／経済学部 講師

『アメーバ経営』 稲盛和夫／著 日本経済新聞社

アメーバ経営とは京セラ独自の経営システムで、企業規模の拡大により見えにくくなる経営状態を見えるように事業組織を最少の組織単位であるアメーバ単位まで細分化し、問題点の早期発見と的確な管理を実現しつつ、独立採算により従業員の経営参加意識を高め、成長の原動力となっているものです。筆者の稲盛和夫氏は仲間数人でアメーバ同様のベンチャー企業を京都で起業して苦難の道を歩いてきた企業経営の困難さを、従業員に小さな組織のリーダーを経験することによって理解し成長してほしいでしょう。企業は成長に伴ってその地盤が隆起するように経営の困難性が拡大するので、人材を途切れることなく育てていかなければ、いずれ事業を把握することさえできない人材に企業の将来を委ねることになるからです。現在はスピード経営の時代といわれますが、経営管理にミスが生じると企業は存亡の危機に直面するので経営者は地道な管理に気を抜くことは許されません。もっとも、京セラの底力はアメーバ経営のみにあるのではなく、前期の赤字決算後にみせた徹底した経営管理から導き出された新たな経営戦略の意思決定の速さにその真髄が現れています。ドラッカーは経営者や経営管理者には知識やスキルではなく真摯さが必要と強調していますが、あらゆる経営知識を取り込んだアメーバ経営のノウハウには、社員を守り企業を倒産させることはできないという強い意志と執念を読み取ることができます。おもしろいネーミングのついた経営方法が紹介された本として気楽に読むこともできますが、随所に経営哲学、経営管理、組織原則、財務会計、キャッシュ・フロー会計や責任会計などの要素が組み込まれており、問題意識をもって読めば読者の技量を問い返して来る「小さく打てば小さく響き、大きく打てば大きく響く」本であり、日本を支える経営者の気概を感じる一冊です。



請求記号:336/Ina

ますやま ゆういち
増山 裕一／経営学部 准教授



お勧めの本は、ズバリ「書庫の本」である。

お勧めの本は、ズバリ「書庫の本」である。といってもそんな名前の本があるわけではない。図書館の本棚には、大きく分けて開架書庫と閉架書庫とがあり、普段利用するのは、誰でもすぐ手に取ることができる開架書庫の本である。「書庫の本」とよんでいるのは、閉架書庫の本のことであり、たまにしか図書館を利用しない、あるいはよく利用する学生のみならずでも書庫に入ることは少ないと思う。何回か図書館に足を運んだ諸君ほど、目新しい本という点で、書棚の本には興味が無いと感じているかもしれない。「書庫の本」は、本館1～6階(ただし1階は学部生利用不可)さらにG館の地階にある。暗い書庫の明りをつけると、そこは本という形の知識の海である。古くなった本は書庫で保存されることが多く、中には戦前のももある。普段あまり見ることのない全国の大学の紀要や海外の専門書なども並んでいる。ここでは、インターネットなどの仮想的な世界では感じることでできない知識の世界の広がりや深さを感じることができる。今日は時間が空いたという時、一度「書庫の本」を手にとってもらいたい。最後に、書庫に入るには、受付でその旨、申し出る必要があるのをお忘れのない様に。

はやし こういち
林 幸一／経営学部 准教授



日頃から気をつけている方はもちろん、マナーを守って生活することは、大切なことです。1人1人のマナーの心がけが、図書館を快適に利用することができます。周りの方への配慮を忘れず、快適な環境で図書館を利用していただくことを願っています。

- 静かにしましょう!
- 返却日を守りましょう!
- 飲食はやめましょう!
- 忘れ物はありますか?
- 貸出手续はすんでいますか?
- 著作権を守りましょう!

コピーは、「複写・閲覧申込書」に記載後、図書館内のコピー機で複写すること。